

凡 例

一、以下の原稿は各木簡出土地の調査機関に依頼して、執筆しているものであるが、体裁および釈文の記載形式については編集担当の責任において調整した。

一、原稿の配列はほぼ奈良時代の五畿七道の順序に準じた。

一、釈文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す（単位はミリメートル）。欠損している場合の法量は括弧つきで示した。その下の三桁の数字は型式番号を示す。またそれぞれの発掘機関での木簡の通し番号は最下段に示した。

一、釈文に加えた符号は次の通りである（五頁第一図参照）。

「」 木簡の上端ならびに下端が原形をとどめていることを示す。

＜ 木簡の上端・下端に切り込みのあることを示す。
　　木簡の上端・下端に切り込みのあることを示す。

□ 欠損した字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。

抹消により判読困難なもの。

欠損文字のうち字数の確認できるもの。

欠損文字のうち字数が推定できるもの。

欠損文字のうち字数の数えられないもの。

前後に文字のつづくことが推定されるが、折損等により文字が失われているもの。

異筆、追筆。

合点。

木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

校訂に関する注で、原則として釈文の右傍に付し、本文に置き換えるべき文字を含む場合。

編者が加えた注で疑問の残るもの。

ママ 文字に疑問はないが意味の通じ難いもの。

… 同一木簡と推定されるが折損等により直接つながらず、中間の文字が不明なもの。

組版の関係で一行のものを二行以上に組まなければならなかつた場合、行末・行初につけたもの。

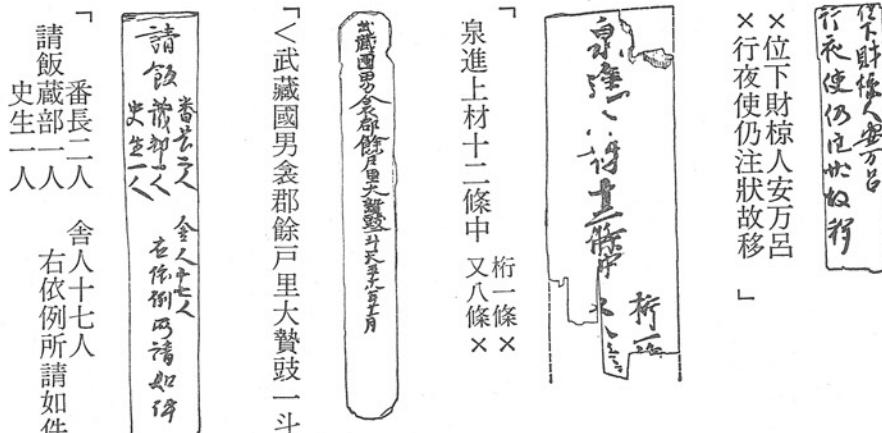
一、地形図は原則として国土地理院発行の五万分の一地形図を使用し図名を（）内に示した。地図中の▼は木簡の出土地点を示す。

一、釈文の最下段に三桁で示した型式番号は、木簡の形態を示し、つぎの一五型式からなる（六頁第一図参照）。

011型式 短冊型。

1982年出土の木簡

- 015型式 短冊型で、側面に孔を穿つたもの。
- 019型式 一端が方頭で他端は折損・腐蝕で原形が失われたもの。
- 021型式 小形矩形のもの。
- 022型式 小形矩形の材の一端を圭頭にしたもの。
- 031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいたるもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。
- 032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいたるもの。
- 033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。
- 039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。
- 051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。
- 059型式 長方形の材の一端を尖らせたものであるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。
- 061型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。
- 081型式 折損・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。
- 091型式 削肩。
- 広島・草戸千軒町遺跡出土木簡の型式番号は、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒—木簡一一』を参照されたい。



第1図 木簡釈文の表現法

府台 余儀猪養

右可間給依事 在台宣知

狀不遇日時參向府達若煙燐科也罪 異大志火志
留吉何處若處

越中國羽山郡中男作物籍壹伯集

天年十八年大廣橋

國房國大倉郡美濃郡久保阿耶男御相值二斗

燒セセセセ 焼ナセセ 与己國四セセ 加比三セセ
水體ニセセ 高体立セセ 小体三セセ 休立九セセ

032型式

033型式

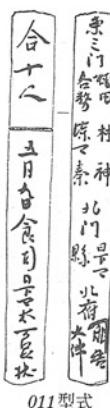
031型式

異大志火志
留吉何處若處

011型式



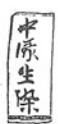
033型式



011型式



051型式



021型式



022型式

0 5 10 15cm

第2図 木簡の形態分類